

平成 31 年 度 ・ 令 和 元 年 度  
事 業 報 告 書

自 平成 31 年 4 月 1 日  
至 令和 2 年 3 月 31 日

## はじめに

日頃から協会事業にご支援を賜り厚くお礼申し上げます。  
令和元年度事業についてご報告申し上げます。

当協会の新年度は新たな会員制度の施行とともにスタートいたしました。新制度への移行に際しましては、会員の皆さまには種別移行の手続きに多大なご協力をいただき、おかげさまで大きな混乱もなくスムーズな制度移行を実現することができました。ひとえに会員の皆さまのご理解とご協力の賜物です。新制度の目的としていた個人会員の拡大についても、着実に会員数が増加していることをご報告いたします。皆さまには、この場をお借りして改めて感謝申し上げます。

2019年度の活動は、公益目的事業を中心に継続すべき基幹事業の安定的推進に留意しながら、本年迎える協会設立40周年事業の準備作業に注力いたしました。また、懸案となっていた協会Webサイトの全面的なリニューアルを行いました。リニューアルに際しては、会員の皆さまはもとより、広報・PRに関心を寄せていただける幅広い層に向けて、関連コンテンツの充実化を図りアクセス機会を増やすことを留意いたしました。引き続き収録コンテンツの充実を図っていく所存です。

さて、協会事業の状況は、第3四半期終了時点までは概ね順調に推移いたしましたが、第4四半期に発生した新型コロナウイルス感染症の問題が、協会の各事業に大きく影響する結果となりました。PRプランナー資格検定試験や講座・セミナーなど、人の集まるイベント事業について、参加者の安全確保を最優先する観点から、やむを得ず延期や中止の判断に至りました。この間に喪失した受験や受講機会については、2020年夏以降に集中開催することで、遅れを取り戻すための事業計画となっています。

また、協会設立40周年記念事業として予定していたシンボル事業“PRovoke Summit & SABRE Awards”についても、開催を来年に延期することといたしました。なお、実施可能な40周年事業については鋭意検討を進めています。

事業区分別では、教育研修事業は1年を通じて概ね順調に推移いたしましたが、第4四半期に入って講座・セミナー事業が延期を余儀なくされました。PRプランナー資格認定事業も受験者数が堅調に増加し、認定PRプランナーは2,800人を超えましたが、3月の第26回1次試験が中止となり受験申し込みをしていた方々には8月に振替で受験していただく予定です。広報委員会主管事業では、PR Yearbookの編集企画ページを強化し読み応えのある編集内容といたしました。顕彰委員会主管事業では、「住民との共創」をテーマとした地域の団地再生プロジェクトがPRアワードグランプリ受賞となり、社会課題の解決がPR目的の主流となりつつあることを証明しています。国際・交流委員会事業では、協会Webサイト内の英文コンテンツの充実化や大使館訪問イベントなどに精力的に取り組みました。企業、PR業、関西の各部会活動も活発に展開されています。

コロナ禍を通じて、IT化が加速する社会において、パブリックリレーションズへの新たな期待が高まりつつあります。パブリックリレーションズ本来の社会的使命と価値について、皆さまとともにアピールし続けていくことの重要性を改めて認識しています。

協会はパブリックリレーションズを通じた社会発展への貢献に向けて一層の努力を傾けていく所存です。会員の皆さまのご理解とご協力を引き続き賜りますよう、心からお願い申し上げます。

# I. 公益目的事業（パブリックリレーションズに関する普及啓発事業）

## 1. パブリックリレーションズに関する倫理綱領の確立および実践

広報・PRパーソンの教育や倫理の徹底を行い、パブリックリレーションズに関する倫理綱領の確立および実践、研修会・講演会の開催並びに人材育成などを行うことにより、パブリックリレーションズの健全な発展を図り、わが国の産業・経済・社会の発展に寄与する事業を継続して行った。

## 2. パブリックリレーションズの啓発・普及ならびに専門人材の養成に向けた教育研修事業

わが国におけるパブリックリレーションズ（広報・PR）の発展と高揚を目的とする当協会の設立趣旨に鑑み、その永続的な啓発・普及ならびに産業・経済・社会の発展に寄与する高度な能力を備える専門人材の養成をめざす公益的な教育研修事業として、研修会、セミナー、オンライン講座等の各種の研鑽機会を創出し広く人々に提供した。

### （ア） 広報・PR実務講座

広報・PRの役割が益々重要になってきており、広報・PRに関わる人材の育成は、企業・団体のみならず社会的な要請となっている。当協会の公益性を鑑み、そのような企業・団体や社会的要請に応える講座を令和元年度も開催した。以下の「広報・PR実務講座」の各々の講座は全て、会員のみならず一般の方々をも対象とし、開催要領は協会Webサイトに掲載して、広く受講の機会を提供した。

#### ① 基礎コース

比較的経験の浅い広報・PRの新任者、広報・PRについて基礎から学びたい方等を主な対象とし、実務に必要な基本的な知識や実務スキルの習得を目的とするコース。

#### 1. 「広報・PR入門講座（春期）」

新入社、社内異動等による広報・PR業務の新任者が対象。パブリックリレーションズの基本をはじめとして、広報・PR業務に欠かせない最も基本的な知識、スキルを3日間の研修を通じて習得する講座。春期は4月23日～25日の3日間で実施した。参加者は3日間受講66名（会員52、一般13、PRプラ1）、1日受講 1日目80名（会員60、一般19、PRプラ1）、2日目71名（会員54、一般16、PRプラ1）、3日目74名（会員54、一般19、PRプラ1）。 プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
4月23日 (火) (1日目)	ご挨拶／オリエンテーション	(公社)日本パブリックリレーションズ協会
	「企業広報」とはどんな仕事？～企業における広報・PRの基本と実際～	日本電気(株) 飾森亜樹子氏
	法とコンプライアンスの観点から見た広報・PR～平時・有事の広報業務で留意すべき法的ポイント～	TMI総合法律事務所 弁護士 中村勝彦氏
	「パブリックリレーションズ」って何だろう？～パブリックリレーションズの基礎を学ぶ～	(株)井之上パブリックリレーションズ 横田和明氏
	あなたもコミュニケーションのプロフェッショナル～魅力ある広報・PRパーソンになる秘訣～	エートゥーゼットネットワーク 石橋真知子氏
	5G時代のコーポレートコミュニケーション～変化するメディア環境とこれからの広報・PR～	(株)日本経済社 菊地伸行氏

4月24日 (水) (2日目)	危機管理広報の基本～緊急時における広報担当の役割と重要性～	(株)エイレックス 兵頭 茜氏
	社会を変える SDGs これだけは知っておこう～SDGs 推進における広報・PRの役割を考える～	(株)オルタナ 森 摂氏
	マスター必須！ ニュースリリースの基本～役割と作成法、活用の仕方を習得する～（講義と演習）	(株)電通パブリックリレーションズ 青田浩治氏
4月25日 (木) (3日目)	成果のあがるマーケティングPRの進め方～すぐに役立つマーケティングPRの基本と実務～	(株)インテグレート 芹澤愛有子氏
	朝日新聞社の経済報道とデジタル戦略～一般新聞・経済部が広報担当に求めること～	朝日新聞東京本社 丸石伸一氏
	メディアの特性とメディアリレーションズの実際～メディアとの上手な付き合い方～（講義と演習）	(株)マテリアル 田代 順氏

## 2. 「広報・PR入門講座（秋期）」

秋期からの広報・PR業務の新任者が対象。パブリックリレーションズの基本をはじめとして、広報・PR業務に欠かせない最も基本的な知識、スキルを2日間の研修を通じて習得する秋期講座。令和2年度は10月24日・25日に実施した。参加者は2日間受講52名（会員40、一般12）、1日受講 1日目54名（会員40、一般13、PRプラ1）、2日目56名（会員43、一般13）。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
10月24日 (木)	ご挨拶／ガイダンス	(公社)日本パブリックリレーションズ協会
	メディアの役割と広報・PR活動	朝日新聞東京本社 寺光太郎氏
	危機管理広報の基本と緊急時における広報・PRの役割～平時と緊急時における企業広報の実際～	(株)電通パブリックリレーションズ 庄子陽介氏
	ニュースリリース作成の基礎と効果的な活用～広報・PR実務の基本としてのニュースリリース～（講義と演習）	(株)共同通信PRワイヤー 西林祐美氏
10月25日 (金)	生活者を動かすこれからのマーケティングPR～戦略PRの考え方と進め方の基本～	(株)本田事務所 本田哲也氏
	ステークホルダーとの関係を深める新しいアプローチ～広報・PR活動におけるアンバサダーマーケティングの適用～	アジャイルメディア・ネットワーク (株) 徳力基彦氏
	メディアリレーション実践編『報道の仕組みとニュースの仕立て方』～情報流通構造を踏まえてメディアの機能を理解する～（講義と演習）	(株)マテリアル 田代 順氏

## ② 中級コース

業務に一定の経験を有する広報・PR関係者を対象とし、専門性の高い講義やグループワークなどの演習を通じて、広報・PRに関する実践的な知識や実務スキルを習得するコース。

### 1. 「広報・PRスキルアップ実践講座」

広報・PR担当者の実務スキルに資することを目的として開設する講座。講義＋演習の講座では広報・PR実務において重要性の高い領域に焦点をあて、実務の効果的な遂行に役立つ知識やスキルを講義と演習を通じて習得する。また、講義のみの講座では、それぞれの領域における最新事例の紹介やケーススタディ、実効性のある理論や考え方などを通じて広報・PRの原理、原則を理解し、業務における応用能力を養成する。

#### (a) 「危機管理広報」(講義＋演習)

企業等における緊急事態へ対処できるよう、広報・PR担当者に不可欠となる考え方や心構え、コミュニケーション施策の立案やメディアへの対応法など、危機管理広報の基本について講義と演習を通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
7月11日 (木)	緊急事態におけるメディア対応の要諦 ～クライシス・コミュニケーションの基本と緊急記者会見～	ゼウス・コンサルティング(株) 代表取締役社長 兼 CEO 白井邦芳氏 参加者：29名(会員20名、一般5名、PRプラ3名、優待1名)

#### (b) 「デジタルPR」(講義＋演習)

デジタルメディアやデジタルツールの普及を背景に成立した現在のコミュニケーション環境において、広報・PR効果の上がる技法の習得を目的として開講する。そのコミュニケーション環境の現状や特性を理解するとともに、これからのPRプランニングの考え方や実務においてデジタルを活用するポイントを講義と演習を通じて習得する。新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、3月11日開講予定だった「広報・PRスキルアップ実践講座(デジタルPR)」については延期を決定。変更後の開講時期は令和2年6月を予定。

#### (c) 「企業広報実務(レピュテーション・マネジメント)」(講義)

企業経営における広報・PRの位置付けや役割、広報戦略や計画の立案など企業広報のポイントについて、コーポレート・コミュニケーションの理論や企業のケーススタディを通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
9月18日 (水)	企業の「評判」構築から維持・管理まで ～「レピュテーション・マネジメント」 の概念と具体的な手法～	社会情報大学院大学 広報・情報研究科 教授 井上 邦夫氏 参加者：25名(会員16名、一般3名、PRプラ4名、優待2名)

(d) 「危機対応」(講義)

不祥事や事故、経営的な失態など組織体における危機発生に際し、その原因、対応における成功や失敗について理論やケーススタディを通じて理解を深め、広報・PR担当者が備えるべき心構えや対応のポイントを習得した。

開催日	講座テーマ	講師
10月9日 (水)	危機管理広報の重要性と平時・有事における効果的な進め方 ～法とメディアの立場からみる危機管理広報の「勘所」～	西村あさひ法律事務所 弁護士 鈴木悠介氏 参加者：32名(会員27名、一般3名、優待2名)

(e) 「マーケティングPR」(講義)

商品の販売や市場における普及を目的とするマーケティングPRについて、効果を上げる新しい考え方や手法、計画の立案法などについて、理論やケーススタディを通じてそのポイントを習得した。

開催日	講座テーマ	講師
11月13日 (水)	「見出し」から考える。広報基点の「共感」マーケティングPR～ユニークな展開で業績に貢献する株式会社ローソンの広報活動～	(株)ローソン コミュニケーション本部副本部長 広報室室長 兼 プロモーション本部本部長 補佐 広報・情報学修士 楯 美和子氏 参加者：26名(会員19名、一般5名、PRプラ1名、優待1名)

(f) 「デジタル危機管理」(講義)

情報技術の発達に基づくデジタル化を背景に発生する緊急事態において、広報・PR担当者に求められる考え方や心構え、危機管理施策の立案やメディアへの対処法などの基本について、理論やケーススタディを通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
12月12日 (木)	メディア記者から見る最新「炎上」トレンドと危機対応の巧拙～デジタル危機管理における準備や対策、緊急時対応のポイント～	日経BP 日経クロストrend編集 小林直樹氏 参加者：31名(会員22名、一般4名、PRプラ4名、優待1名)

(g) 「戦略的企業文化の醸成」(講義)

社内、グループ内における経営理念の浸透、企業文化の醸成などを目的とするインターナル・コミュニケーションについて、その経営的な意味や役割、戦略及び施策の立案などのポイントを理論やケーススタディを通じて習得した。

開催日	講座テーマ	講師
1月23日 (木)	すべての社員に企業理念とビジョンを浸透させて、自発的な貢献意欲を促すために～社員のエンゲージメントを高める効果的なコミュニケーション手法、施策とは～	(株)ソフィア フィールドリサーチ&コンサルティング事業責任者 森口静香氏 参加者：38名(会員28、一般8、PRプラ1、優待1)

(h) 「広報効果測定」(講義)

広報・PRがその活動を通じてどのような成果をあげたかその効果を測定するための手法や考え方などについて、理論やケーススタディを通じて習得した。特に、デジタルを活用したコミュニケーション手法の普及を考慮し、その測定についてとり扱う。

開催日	講座テーマ	講師
2月20日 (木)	マーケティング施策と連動してとらえる広報効果測定の考え方と具体的な方法～事例から示す無償ツールの活用、SNS波及とその効果の測定～	(株)オズマピーアール ビジネス開発本部 コミュニケーションデザイン部 エキスパート 登坂泰斗氏 (株)オズマピーアール ビジネス開発本部 コミュニケーションデザイン部 コミュニケーションディレクター 猿田一揮氏 参加者：43名(会員42、PRプラ1)

③ 広報・PR管理職コース

1. 「新任広報部長講座」

広報部門の上級管理職として不可欠な考え方や心構え、社内外との関係性の構築、メディアから見た企業・経営の評価や企業におけるガバナンスやコンプライアンス、危機管理などについて情報交換を交えながら習得した。参加者は：11名(会員6名、一般4名、PRプラ1名)

開催日	講座テーマ	講師
11月12日 (火)	企業の変革期における広報マネジメントの課題と責任	日本電気(株) コーポレートコミュニケーション本部 本部長 飾森亜樹子氏
	グローバル企業における広報マネジメントのポジショニングとオペレーション	日本マイクロソフト(株) 業務執行役員 コーポレートコミュニケーション本部 本部長 岡部一志氏
	取材する側、取材される側～メディアと広報部長 より望ましい関係とは～	読売新聞東京本社 社長直属 教育ネットワーク事務局 事務局部長 岡部匡志氏

	企業の危機管理と広報部長の役割	TMI 総合法律事務所 パートナー弁護士 中村勝彦氏
	広報マネジメントサロン（懇親・意見交換会）	

#### ④ セミナー

##### 1. 「PRアワード受賞事例公開セミナー」

「PRアワードグランプリ2019」において、最も優れたプロジェクトとして選出された「グランプリ」1件と「ゴールド」1件、「シルバー」2件の合計4件の事例について紹介した。講演では、プロジェクトの企画や施策の遂行において工夫したポイント、達成した成果などを受賞関係者から解説いただいた。参加者：120名（会員92、一般18、PRブラ9、優待1）。

開催日	講座テーマ	プレゼンター
2月13日 (木)	開会「PRアワードグランプリ 2019」について	「PRアワードグランプリ 2019」 審査委員長 井口 理氏
	●シルバー受賞作品 社会人のための飲み会平和化プロジェクト チーム“ビール“ディング 〈コーポレート・コミュニケーション〉	事業主体：(株)ヤッホーブルーイング エントリー会社：(株)電通／(株)電通パブリックリレーションズ／ (株)電通デジタル
	●シルバー受賞作品 資生堂 AgDE024:『ストレス臭』でコモディティ化した制汗剤市場を新規開拓 〈マーケティング・コミュニケーション〉	事業主体：資生堂ジャパン(株) エントリー会社：(株)電通／(株)電通パブリックリレーションズ
	●ゴールド受賞作品 パンテーン 『この髪どうしてダメですか』 〈ソーシャルグッド〉	事業主体：プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン(株) エントリー会社：(株)マテリアル
	●グランプリ 『住民との共創』で、衰退していた団地の未来を変えていく。『茶山台団地』再生プロジェクト 〈コーポレート・コミュニケーション〉	事業主体：大阪府住宅供給公社 エントリー会社：大阪府住宅供給公社／(株)オズマピーアー
	審査員トークセッション	審査委員長：井口 理氏 審査委員：本田哲也氏 審査委員：横田和明氏 モデレーター：田代 順氏

##### 2. 「PRSJオープンセミナー」

広報・PRとも関連する社会的かつタイムリーなテーマを設定して開催するセミナー。協会会員にとどまらず一般にも聴講を募り、設定したテーマについての理解や知見を深める。協会会員にとどまらず、広く一般にも聴講を募り開催する予定だったが、令和元年度は登壇予定者の日程などを確保できず、開催を見合わせた。



### 3. 「新春PRフォーラム」

令和元年度は新春特別講演として令和2年1月22日（水）、作家・元外務省主任分析官の佐藤 優氏を講師に迎え、「北東アジアの地政学的変動と日本外交」をテーマにご講演いただいた。参加者は86名。

開催日	講座テーマ	講師
1月22日 (水)	北東アジアの地政学的変動と日本外交	作家・元外務省主任分析官 佐藤 優氏 参加者 86名

#### (イ) PRプランナー試験対策講座

広報・PRに関する知識やスキルを検定する「PRSJ認定PRプランナー資格」の取得を目的に、講義や演習を通じて試験の合格に必要な知識やスキルの習得をめざすコース。

##### ① 「1次試験対策講座」

本講座は、PRプランナーを志す皆様の登竜門となる1次試験の合格を目的とし、合格に必要な広報・PRの基礎知識の習得に向けて、夏期と冬期の各々全4回で開講した。講座では、1次試験の対象となる幅広い領域を4つに分け、4回の講義により解説を行った。また、実践的な対策となるよう模擬試験問題を配布し、受講者各自の学習への取組みを奨励した。

参加者は夏期 会場受講16名（会員6、一般9、学生1）、Web受講38名（会員13、一般24、学生1）、計54名。冬期 会場受講19名（会員11、一般7、学生1）、Web受講24名（会員3、一般20、学生1）、計43名。プログラムは以下のとおり。

#### 【夏期】

開催日	講座テーマ	講師
7月16日 (火)	・広報・PRの基本 ・企業経営と広報・PR ・広報・PR活動のマネジメント	(株)井之上パブリックリレーションズ 戦略企画部 部長 横田和明氏
7月23日 (火)	・コミュニケーションの基礎理論 ・マーケティングの基礎理論 ・マーケティングと広報・PR ・ブランドの基礎理論	
7月29日 (月)	・メディアリレーションズ ・IR（インベスターリレーションズ） ・インターナル・コミュニケーション	(株)エイレックス 危機管理広報コンサルティング部長 シニアトレーナー 畑山 純氏
8月6日 (火)	・危機管理広報 ・グローバル広報 ・CSR（企業の社会的責任） ・行政・団体等の広報・PR	

#### 【冬期】

開催日	講座テーマ	講師
1月29日 (水)	・広報・PRの基本 ・企業経営と広報・PR ・広報・PR活動のマネジメント	(株)井之上パブリックリレーションズ 戦略企画部 部長 横田和明氏

2月4日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基礎理論</li> <li>・マーケティングの基礎理論</li> <li>・マーケティングと広報・PR</li> <li>・ブランドの基礎理論</li> </ul>	
2月12日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリレーションズ</li> <li>・IR (インベスターリレーションズ)</li> <li>・インターナル・コミュニケーション</li> </ul>	(株)エイレックス 危機管理広報コンサルティング部長 シニアトレーナー 畑山 純氏
2月19日 (水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危機管理広報</li> <li>・グローバル広報</li> <li>・CSR (企業の社会的責任)</li> <li>・行政・団体等の広報・PR</li> </ul>	

## ② 「2次試験対策講座」

広報・PRにかかわる専門分野を公式テキスト『広報・PR実践』に沿って解説し、2次試験の合格に必要な知識の習得をはかる講座。令和元年度におけるPRプランナー資格認定制度の試験項目改訂に準拠した内容で、ネットを活用したオンデマンド方式のWeb講座の形態で令和元年9月24日から開講した。全14章受講41名（会員17、一般12、PRプランナー補取得者12）、1章のみ受講8名（会員1、一般6、PRプランナー補取得者1）。プログラムは以下のとおり。

	講座テーマ	講師
第1章	経営環境の変化と広報・PR	(株)資生堂 上岡典彦氏
第2章	CSRと広報・PR	(株)電通パブリックリレーションズ 大川陽子氏
第3章	インターナル・コミュニケーション戦略	日本電気(株) 飾森亜樹子氏
第4章	IR活動の実務	(株)エイレックス 江良嘉則氏
第5章	グローバル広報の実務	日本電気(株) 飾森亜樹子氏
第6章	危機管理広報の実務	(株)エイレックス 平野日出木氏
第7章	マーケティング・マネジメント	(株)博報堂 小林由夏氏
第8章	マーケティング・コミュニケーションの実務	(株)博報堂 小林由夏氏
第9章	マーケティングと広報・PRの動向	(株)電通パブリックリレーションズ 谷 鉄平氏
第10章	マスメディアとソーシャルメディア	(株)電通パブリックリレーションズ 国田智子氏
第11章	メディアリレーションズの実務	(株)オズマピーアール 伊郷美貴氏
第12章	自社メディアの種類と実務	(株)電通パブリックリレーションズ 黒澤 光氏
第13章	広報・PR戦略立案の実務知識	(株)オズマピーアール 野村康史郎氏

第14章	時事問題	一般社団法人「企業広報研究ネットワーク」理事長／元読売新聞 尾関健一郎氏
------	------	---

### ③ 「3次試験対策講座」

3次試験の課題となるニュースリリース、広報・PR計画の立案作成（マーケティング及びコーポレート）の3テーマについて、講義と演習を通じて合格に必要な知識とスキルを習得する試験対策の実践講座。3次試験の実施時期に対応させ、6月の夏期、1月開講の冬期の2期に分け、それぞれ全6回を開講した。試験の合格にフォーカスした実践的な内容を特徴している。

参加者は夏期 会場受講33名（会員16、一般10、PRプラ7）、Web受講60名（会員6、一般38、PRプラ16）、計93名。

冬期 会場受講23名（会員14、一般6、PRプラ3）、Web受講61名（会員20、一般29、PRプラ12）、計84名。各々のプログラムは以下のとおり。

#### 【夏期】

開催日	講座テーマ	講師
6月5日 (水)	ニュースリリースの作成	(株)電通パブリックリレーションズ 第3PC局 オリンピック・パラリンピック部 シニア・アドバイザー 青田浩治氏
6月12日 (水)		
6月19日 (水)	広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題)	(株)オズマピーアール 営業戦略室 室長 野村康史郎氏
6月26日 (水)		
7月3日 (水)	広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題)	(株)井之上パブリックリレーションズ アカウントサービス本部 AS2部 部長 高野祐樹氏
7月10日 (水)		

#### 【冬期】

開催日	講座テーマ	講師
12月11日 (水)	ニュースリリースの作成	(株)電通パブリックリレーションズ 第3PC局 オリンピック・パラリンピック部 シニア・アドバイザー 青田浩治氏
12月18日 (水)		
12月25日 (水)	広報・PR計画の立案作成 (マーケティング課題)	(株)オズマピーアール 営業戦略室 室長 野村康史郎氏
1月8日 (水)		
1月15日 (水)	広報・PR計画の立案作成 (コーポレート課題)	(株)井之上パブリックリレーションズ アカウントサービス本部 AS2部 部長 高野祐樹氏
1月20日 (火)		

### (ウ) PRプランナーフォーラム

PRプランナー資格認定制度の創設以来、認定PRプランナーは累計で2,800人を突破している。PRプランナー資格取得者を対象に、PRプランナー同士の交流促進とPRプランナーとしてのさらなるスキルアップをめざして、「PRプランナーフォーラム」の開催に向け検討した。

また、PRプランナーに求められる①広報・PRに関する幅広いスキル、②高いコミュニケーション力、合意形成力、③倫理観などの観点から研鑽するための場として、ファシリテーションを活用していくこととした。

### (エ) 定例会（関西地区）

会員のニーズを汲み上げ、各種メディアを中心に有識者、各界各層から旬の講師を招いて講演・研修会及び交流会を開催する。会員のみならず一般の方々をも対象とし、開催要領は協会Webサイトに掲載し、広く一般に受講の機会を公開する。また、新元号が「令和」と決まり、5月1日には令和天皇が即位し、新しい時代を迎えたことを受け特別講座も開催した。令和元年度は6回開催した。延べ180名（会員162、一般18名）（1回あたり約30名）。

開催日	講演テーマ	講師
4月19日 (金)	特別講座 天皇即位と新元号	京都産業大学 名誉教授 所 功氏 参加者 23名（会員 21、一般 2）
4月25日 (水)	第270回 連続テレビ小説「まんぷく」の制作あれこれ	NHK 大阪放送局 チーフ・プロデューサー 真鍋 齋氏 参加者 26名（会員 26、一般 0）
6月19日 (水)	第271回 新聞づくりの現場（朝日新聞大阪本社）	参加者 44名（会員 38、一般 6）
10月4日 (金)	第272回 「ザ・プレミアム・モルツ講座」モノづくり 現場見学 京都ブルワリー（ビール工場）	参加者 21名（会員 20、一般 1）
12月19日 (木)	第273回 2020年の日韓関係を展望する～米国、中国そして北朝鮮は～	龍谷大学社会学部教授 李 相哲氏 参加者 38名（会員 32、一般 6）
2月26日 (水)	第274回 朝日新聞の経済報道@関西	朝日新聞大阪本社 経済部長 多賀谷克彦氏 参加者 28名（会員 25、一般 3）

### (オ) 広報基礎講座（関西地区）

新人・新任の広報・CSR担当者、PRプランナーを目指す人達向けの講座として、7月24日に大阪で開催した。統一テーマは「三大メディアの研究」。活字（新聞）、映像（テレビ）、SNS（ネット）の三つのメディアについて、3講座を開催した。会員のみならず一般の方々をも対象とし、要領は協会Webサイトに掲載し、広く一般に受講の機会を公開した。参加者20名（会員20、一般0）。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
7月24日 (水)	第1講座 番組制作の舞台裏～情報番組からドラマまで	(株)毎日放送 (MBS) コンプライアンス室 広報部 次長 村上嘉章氏
	第2講座 SNS(ネット広報)の光と影 <第1部> ネット広報の威力 <第2部> ネットの怖さ	(株)TM オフィス 代表取締役 殿村美樹氏
	第3講座 変わるメディア、変わらぬ取材～日経新聞社会部の取材・編集方針	日経新聞大阪本社 社会部 部長 雨宮義敬氏

(カ) 広報学校 (関西地区)

中堅広報・PRパーソンを対象に、広報・CSR活動のキャリアアップを目的としている。広報スキルの習熟、レベルアップに向けて中身の濃いかつ受講者のニーズを充足させる講座で、会員のみならず一般の方々をも対象とし、11月7日にテーマを「インターネット」と「危機管理～テレビ会見の怖さ」とし開講した。開催要領は協会Webサイトに掲載し、広く一般に受講の機会を公開した。参加者20名(会員20、一般0)。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
11月7日 (木)	第1講座 インターネットメディアの概況	(株)ブライブメディア 代表取締役/メディアプロデューサー 國枝 至氏
	第2講座「テレビ会見の怖さ」 <第1部> カメラから見た取材対応の基本	毎日放送 役員室エグゼクティブ 岸本文利氏
	<第2部> 模擬会見&総括講義・指導	報道局シニアスタッフ兼カメラマン 南川二郎氏

(キ) 拡大関西部会広報ゼミナール (関西地区)

新人・新任の広報・CSR担当者、PRプランナーを目指す人達向けの講座として、8月28日にテーマを「大阪・関西万博」とし大阪で開催した。会員のみならず一般の方々をも対象とし、要領は協会Webサイトに掲載し、広く一般に受講の機会を公開した。参加者26名(会員22、一般4)。プログラムは以下のとおり。

開催日	講座テーマ	講師
8月28日 (水)	2025年大阪・関西万博について～いのち輝く未来社会のデザイン～	2025年日本国際博覧会協会審議役 高見明伸氏

### (ク) 新春PRフォーラム関西

令和元年度もタイムリーなテーマ、講師を選定して開催した。今年度は1月27日に開催した。参加者は参加者37名（会員32、一般5）。

開催日	講座テーマ	講師
1月27日 (月)	産経新聞の編集方針と国際報道	産経新聞大阪本社 編集局次長兼政治国際部長兼 論説委員 長戸雅子氏

## 3. パブリックリレーションズに関する人材育成

PRプランナー資格認定制度は、広く社会の発展に寄与するPRパーソンとしての知識、スキル、職能意識を有することを認定し、広報・PR業務に携わる人材の育成と技能向上に寄与し、広報・PR活動の社会的認知の拡大をはかることを目的とする。PR関連会社や企業の広報部門のPR担当者はもちろんのこと、将来PR関連業界や広報・PR部門での業務を希望する人やビジネスパーソンに求められる広報・PRに関する知識やスキルを持ちたいと考えている人など、幅広い層の人を対象に、広報・PRの基本的な知識から実践的なスキルまでを問う資格検定試験である。開催要領、合格基準は協会Webサイトに掲載し、広く一般に受検の機会を公開している。また2013年度から制作しているPR誌をリニューアルし、当PRプランナー資格認定制度の社会的認知度向上に努めていく。

### (ア) PRプランナー資格認定制度

PRプランナー資格検定試験の第24回の2次、3次試験、第25回の1、2、3次試験の募集と実施運営、PRプランナー資格認定業務に取り組んだ。

第24回資格検定試験において、2次試験に257名が受験し230名が合格、3次試験は305名が受験し101名が合格者となった。

新試験項目の最初の試験となった第25回資格検定試験においては、1次試験に695名が受験し542名合格、2次試験は384名が受験し370名が合格、3次試験は304名が受験し94名が合格となった。

令和1年8月に実施した第25回資格1次試験では、752名の受験申込があり、平成19年（2007年）9月に実施した第1回1次試験を除き、過去最大の受験申込者、受験者となった。

令和1年11月に実施した第25回資格2次試験では、423名の受験申込があり、平成19年（2007年）11月に実施した第1回2次試験を除き、過去最大の受験申込者、受験者となった。

令和1年7月に実施した第24回資格3次試験と令和2年1月に実施した第25回資格3次試験では、ともに329名の受験申込があり、平成20年（2008年）1月に実施した第1回3次試験を超え過去最多の受験申込者となった。

第24回と第25回の2回の検定試験を通じて、186名のPRプランナー、122名の准プランナー、187名のPRプランナー補が新たに誕生し、結果として、令和元年度末において、累計で2,844名のPRプランナー、1,189名の准プランナー、2,920名のPRプランナー補が登録されている。令和2年3月に予定していた第26回1次試験は、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、令和2年8月に延期することとした。

### 第1回～第25回1次試験 合格率の推移

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回（2007年9月1日）	788名	752名	723名	96.1%
第2回（2008年3月9日）	431名	397名	301名	75.8%

第3回 (2008年8月30日)	417名	379名	282名	74.4%
第4回 (2009年3月8日)	457名	421名	347名	82.4%
第5回 (2009年8月30日)	490名	441名	312名	70.7%
第6回 (2010年3月7日)	423名	371名	311名	83.8%
第7回 (2010年8月29日)	382名	346名	255名	73.7%
第8回 (2011年3月5日)	402名	372名	293名	78.8%
第9回 (2011年8月28日)	403名	371名	269名	72.5%
第10回 (2012年3月4日)	446名	399名	298名	74.7%
第11回 (2012年8月26日)	452名	419名	310名	74.0%
第12回 (2013年3月3日)	493名	450名	270名	60.0%
第13回 (2013年8月25日)	508名	470名	345名	73.4%
第14回 (2014年3月2日)	498名	447名	295名	66.0%
第15回 (2014年8月24日)	464名	432名	308名	71.3%
第16回 (2015年3月1日)	466名	422名	258名	61.1%
第17回 (2015年8月23日)	480名	451名	376名	83.4%
第18回 (2016年3月6日)	462名	419名	208名	49.6%
第19回 (2016年8月21日)	552名	516名	414名	80.2%
第20回 (2017年3月5日)	587名	529名	417名	78.8%
第21回 (2017年8月20日)	589名	553名	431名	77.9%
第22回 (2018年3月4日)	611名	557名	424名	76.1%
第23回 (2018年8月26日)	605名	567名	420名	74.1%
第24回 (2019年3月3日)	579名	516名	383名	74.2%
第25回 (2019年8月25日)	752名	695名	542名	78.0%
<b>累計</b>	<b>12,737名</b>	<b>11,692名</b>	<b>8,792名</b>	<b>75.2%</b>

**第1回～第25回2次試験 合格率の推移 ※4科目一括のみ**

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回 (2007年11月11日)	430名	422名	342名	81.0%
第2回 (2008年5月18日)	185名	173名	112名	64.7%
第3回 (2008年11月16日)	166名	148名	84名	56.8%
第4回 (2009年5月17日)	229名	208名	169名	81.3%
第5回 (2009年11月14日)	216名	194名	170名	87.6%
第6回 (2010年5月16日)	242名	226名	186名	82.3%

第7回 (2010年11月14日)	212名	200名	166名	83.0%
第8回 (2011年5月15日)	241名	224名	145名	64.7%
第9回 (2011年11月13日)	194名	180名	139名	77.2%
第10回 (2012年5月13日)	216名	197名	137名	69.5%
第11回 (2013年1月26日)	236名	212名	143名	67.5%
第12回 (2013年5月19日)	232名	210名	156名	74.3%
第13回 (2013年11月17日)	286名	253名	197名	77.9%
第14回 (2014年5月18日)	233名	208名	147名	70.7%
第15回 (2014年11月16日)	255名	220名	143名	65.0%
第16回 (2015年5月17日)	235名	205名	151名	73.7%
第17回 (2015年11月15日)	298名	264名	176名	66.7%
第18回 (2016年5月16日)	205名	185名	171名	92.4%
第19回 (2016年11月16日)	317名	277名	219名	79.1%
第20回 (2017年5月14日)	288名	265名	234名	88.3%
第21回 (2017年11月12日)	393名	352名	293名	83.2%
第22回 (2018年5月13日)	353名	325名	246名	75.7%
第23回 (2018年11月11日)	323名	286名	247名	86.4%
第24回 (2019年5月12日)	289名	257名	230名	89.5%
第25回 (2019年11月17日)	423名	384名	370名	96.3%
累計	<b>6,697名</b>	<b>6,075名</b>	<b>4,732名</b>	<b>77.9%</b>

#### 第1回～第25回3次試験 合格率の推移

試験実施日	申込者数	受験者数	合格者数	合格率
第1回 (2008年1月19日)	305名	297名	145名	48.8%
第2回 (2008年7月26日)	250名	232名	182名	78.4%
第3回 (2009年1月24日)	164名	156名	128名	82.1%
第4回 (2009年7月25日)	204名	193名	146名	75.6%
第5回 (2010年1月23日)	200名	193名	148名	76.7%
第6回 (2010年7月24日)	206名	199名	133名	66.8%
第7回 (2011年1月22日)	180名	174名	107名	61.5%
第8回 (2011年7月23日)	193名	185名	120名	64.9%
第9回 (2012年1月21日)	200名	168名	96名	57.1%



第10回 (2012年7月21日)	210名	176名	113名	64.2%
第11回 (2013年1月26日)	196名	160名	118名	73.8%
第12回 (2013年7月27日)	213名	173名	110名	63.6%
第13回 (2014年1月25日)	205名	171名	132名	77.2%
第14回 (2014年7月26日)	154名	148名	109名	73.6%
第15回 (2015年1月24日)	136名	128名	84名	65.6%
第16回 (2015年7月15日)	142名	138名	89名	64.5%
第17回 (2016年1月23日)	164名	154名	93名	60.4%
第18回 (2016年7月23日)	196名	185名	86名	46.5%
第19回 (2017年1月21日)	203名	191名	100名	52.4%
第20回 (2017年7月22日)	246名	234名	124名	53.0%
第21回 (2018年1月20日)	264名	252名	109名	43.3%
第22回 (2018年7月21日)	311名	298名	124名	41.6%
第23回 (2019年1月26日)	327名	308名	120名	39.0%
第24回 (2019年7月20日)	329名	305名	101名	33.1%
第25回 (2020年1月25日)	329名	304名	94名	30.9%
<b>累計</b>	<b>5,527名</b>	<b>5,122名</b>	<b>2,911名</b>	<b>56.8%</b>

### ① 実施運営

- ・第24回の2次、3次試験、第25回の1次、2次、3次試験の受験者募集と実施運営、資格認定業務に取り組んだ。新型コロナウイルス感染症拡大により中止とした第26回の1次試験は、受験者に対し、中止の事前周知、試験当日対応、試験振替対応等の業務に取り組んだ。
- ・申込受付、試験運営、試験問題作成および採点業務などは事務局、資格委員、試験委員および外部委託会社と一体となって取り組んだが、3次試験の採点評価などについては、引き続き会員各位の協力を得て取り組んだ。
- ・第24回2次試験は東京・大阪・福岡で、第25回1次試験は、東京・大阪・札幌・名古屋で、2次試験は、東京・大阪・名古屋で、それぞれ実施した。

### ② 広報普及

- ・主に第25回、第26回の1次試験実施に向けて会員各位の協力を得た上で、会員社社員の受験促進に取り組んだ。あわせて、日本広報学会、大学などの関係機関、外部セミナー機関などを通じて学生、一般社会人への受験を積極的に働きかけた。さらに企業の教育プログラムでの推薦資格として位置付けられないかなど、人材開発、人事部へのアプローチを行った。
- ・令和元年度もPRプランナー合格者の声、実施要項、参考問題、取得企業などの情報をまとめた広報普及ツール「PRプランナーのPR誌」を更新し、広報領域の大学関係者への働きかけと、地方会場のさらなる広報普及に役立てた。
- ・令和元年度も資格Webサイトや協会ニュースでの告知や、資格取得に関心のある読者層をターゲットにした媒体への広告出稿などに取り組んだ。特に一般社会人への告知が重要であるとの認識で広報普及活動を展開し、長期、安定的な受験につなげた。
- ・Web媒体を含めた一般マスコミに対しても、活躍しているPRプランナーの紹介など、

様々な切り口での取材を働きかけ、PRプランナーの認知度向上、ステータス向上に向け、同時に協会自体のアピールにも寄与した。

- ・資格 Web サイトと資格の公式 Facebook 更新など、更なる普及に努めた。

### ③ 試験問題の作成および採点

- ・より公正で納得性の高い検定試験を目指して、新試験項目での試験問題の作成に取り組んだ。特に試験問題の品質の向上と水準の安定化を図るため、過去問題の正答状況などの結果分析をもとに、それらを反映し新試験項目に準拠した試験問題の作成に取り組んだ。
- ・難易度の高い3次試験に関しては、採点基準の一層の安定化を目指すために、さらなる採点の標準化に取り組んだ。
- ・前年度から継続して、中長期におけるPRプランナー試験項目内容の見直しについての検討を行った。

## 4. パブリックリレーションズに関する顕彰

協会の中期計画（協会の安定的事業基盤の構築・協会レピュテーションの向上・グローバル化の推進・若手PRプランナーの育成）に基づき、顕彰事業の継続的運営と拡大に努め、協会活動への理解獲得、およびパブリックリレーションズ（PR）の普及と発展に寄与・貢献する。具体的には、PRの発展に貢献した案件・人材・組織の顕彰を実施し、もってPRの社会性や時代性のアピール、PRの技術と理論の向上を推進するとともに、PRの継続的発展に資する顕彰活動のアーカイブ化を行う。

### (ア) 日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤー

日本PR大賞 パーソン・オブ・ザ・イヤーは、さまざまな分野で活躍した人の中から、1年を通じてその話題性や好感度の高さ、さらに活動を通じてPR本来の目的である“公益に資する”という観点から、最も活躍し、さらに貢献度の高かった人を表彰する制度で、協会メンバーの投票と外部審査員による投票の結果、令和元年度はジェイミー・ジョセフ氏（ラグビー日本代表ヘッドコーチ）を選出、表彰することを決定した。

受賞者	受賞理由
ジェイミー・ジョセフ氏 (ラグビー日本代表ヘッドコーチ)	ジェイミー・ジョセフ氏は、ラグビー日本代表ヘッドコーチとして、ラグビーワールドカップ 2019 日本大会において日本代表を初のベスト 8 に導くなど、指導者として見事な手腕を発揮した。また“ONE TEAM”のスローガンの下、多様性を重んじるラグビー精神を多くの日本人に理解させ、新しいラグビーファンの獲得とラグビーブーム復活に大きく貢献。ヘッドコーチとしての一連の活動は、広報・PRの観点からも多大な功績が認められ、日本PR大賞「パーソン・オブ・ザ・イヤー」に選出された。

### (イ) 日本PR大賞 シチズン・オブ・ザ・イヤー

日本PR大賞「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、長きにわたって独創的な事業活動、さらにPR活動を実践しながら、広く社会や地域の発展に大きく貢献している企業や団体を対象に選考する制度で、協会メンバーによる投票と外部審査員による投票の結果、令和元年度は一般社団法人「注文をまちがえる料理店」を選出、表彰することを決定した。

受賞者	受賞理由
一般社団法人「注文をまちがえる料理店」	注文を取るスタッフがみんな認知症の「注文をまちがえる料理店」はPR、外食、認知症介護など各分野のプロフェッショナルが集まり、プロジェクト化されたレストラン型イベント。世界中に共

	<p>感の輪が広がり各地でイベントが開催されている。</p> <p>たとえ間違えても『ま、いいか』と思えるような寛容さを社会が持つことの重要性を多くの人に気づかせ、また、認知症の方やそのサポーターに対しては、働くことの喜びを与え続けている。プロジェクトを継続的な活動とすべく社団法人化され、多様なパートナーとのコラボレーションにより活動の場を広げている。</p>
--	---

#### (ウ) PRアワードグランプリ

コミュニケーション活動（広報・PR活動）の事例を広く募集し、審査を通して優秀な活動を表彰・公開し、わが国におけるコミュニケーション技術の質的向上およびパブリックリレーションズに対する一層の理解促進を図った。企業広報やPR関連会社及びアカデミズム、ジャーナリズムで高い実績と経験を備えた10名の審査員団が、エントリー全作品を書類段階からグランプリ選出まで一貫して選考に当り、PRのプロフェッショナルがカテゴリーの枠を超えて、PR業務の最高峰を選出するアワードの実現を目指した。また、前年度同様、経済産業省、日本広報学会、公益社団法人日本広報協会の後援をいただいた。

令和元年度は以下の4カテゴリーでの募集となった。

- (イ) コーポレート・コミュニケーション
- (ロ) マーケティング・コミュニケーション
- (ハ) ソーシャルグッド
- (ニ) その他

9月2日（月）～10月23日（水）までの応募期間で、本年度のエントリー応募総数は75作品。

各部門のエントリー数は以下のとおり。

- (イ) コーポレート・コミュニケーション : 21作品
- (ロ) マーケティング・コミュニケーション : 28作品
- (ハ) ソーシャルグッド : 18作品
- (ニ) その他 : 8作品

なお、非会員からの応募は18作品であった。

11月11日（月）に審査団による一次審査会でブロンズ以上15エントリーが確定。12月3日（火）開催のグランプリ審査会では、シルバー以上7組で非公開プレゼンテーションを実施・各賞が決定（グランプリ／ゴールド／シルバー／ブロンズ）。審議の結果、令和元年度グランプリは、エントリー会社大阪府住宅供給公社／（株）オズマピーアールの『「住民との共創」で、衰退していた団地の未来を変えていく。『茶山台団地』再生プロジェクト』に決定した。12月10日（火）時事通信ホールで開催された表彰式で受賞者のプレゼンテーションを行なった。各賞の受賞作品は以下のとおり。

賞	活動の名称	エントリー会社
グランプリ	「住民との共創」で、衰退していた団地の未来を変えていく。「茶山台団地」再生プロジェクト	大阪府住宅供給公社／（株）オズマピーアール
ゴールド	SAVE LIONS（セーブライオンズ）～消えゆく野生のライオンを救うプロジェクト～	（株）電通／（株）電通パブリックリレーションズ
ゴールド	#この髪どうしてダメですか	（株）マテリアル
シルバー	最新の AI テクノロジーを活用、親子が楽しく食や栄養について学べるアプリを通じた食育活動	大塚製薬（株）
シルバー	不倫・BL・ひきこもり… “複雑すぎる” ペンギン相関図	（株）電通

シルバー	社会人のための飲み会平和化プロジェクト 「チーム “ビール”ディニング」	(株)電通／(株)電通パブリック リレーションズ／(株)電通デジ タル
シルバー	資生堂 AgDE024(エージーデオ 24):「ストレ ス臭」でコモディティ化した制汗剤市場を新 規開拓!	(株)電通／(株)電通パブリック リレーションズ
ブロンズ	Yahoo!防災ダイバーシティ	(株)電通
ブロンズ	20年をつづる母子健康手帳 国内外への展開	(一社)親子健康手帳普及協会
ブロンズ	洗っても蘇るイヤなニオイ「ゾンビ臭」をや っつける!「トップ クリアリキッド抗菌」	(株)電通／(株)電通パブリック リレーションズ
ブロンズ	若年層ファン化/社会問題の喚起へとつなげ る、B2B 企業の挑戦「LOVE 米プロジェクト」	(株)電通／(株)電通パブリック リレーションズ
ブロンズ	モバイルキャリアが現代ティーンに投げかけ たコンテンツ PR キャンペーン 「パラレルスクール DAYS」	(株)博報堂ケトル
ブロンズ	たべることば	(株)電通
ブロンズ	くら寿司「天然魚プロジェクト」の挑戦 ～サステイナブルな漁業のビジネスシステム 構築を目指して～	(株)電通パブリックリレーショ ンズ／(株)アド電通大阪
ブロンズ	PARA PINGPONG TABLE	(株)TBWA HAKUHODO
ブロンズ	# PUPPY NEW YEAR	(株)東急エージェンシー

## II. 収益事業（パブリックリレーションズに関する出版物の発行）

### 1. 2019 PR Yearbook

本冊子を協会の社会へ向けてのメッセージツールとして位置づけ、より安定した体制のもと、先進性も加味し、執筆陣に新たな人材を発掘して発信力のある内容を目指した。企画としては「人材」に着目してスタートアップ企業のトップの登場をいただいた。優れた広報活動と実践者を顕彰する「PRアワードグランプリ」「日本PR大賞」は本年もこれまでの流れを継続。上記のような内容展開を着実に積み重ねていくことにより、「パブリックリレーションズの普及啓発を図る公益的な目的を持ったYearbook」としての特長を明確にしていくという方針を堅持した。

### 2. 広報・マスコミハンドブック（PR手帳2020）

2019年版を踏襲し、巻頭企画である「今を読み解くキーワード」「知っておきたいファクトデータ」については、年度ごとに最新データに更新し情報鮮度を高めた。3本目の柱である「実務に役立つチェック＆フロー」は、実用性と精度を高める。今後も広報・PRプランナーの実務での「必携ハンドブック」として高いレベルでの正確性を維持し、更なる充実を目指すとともに、IRや宣伝販促担当者へのターゲット拡大を図った。

### 3. PRプランナー資格認定検定試験対応テキストの作成および販売

- ・令和元年度は、新試験体系に対応した新テキストの普及と販売に取り組んだ。
- ・『広報・PR概説』は、第2刷（1,300部）を12月に販売した。これまでに刊行された初版と合わせると、3,800部を出版した。3月末時点では、残670部となっている。
- ・『広報・PR実践』は、第1刷を継続して販売した。これまでに刊行された部数は2,000部となる。3月末時点では、残590部となっている。
- ・参考問題を収録した『広報・PR資格試験問題集 PRプランナー資格認定制度 1次・2次・3次試験 参考問題集 2019年度版』を令和1年6月に1,500部出版した。3月末時点では、残180部となっている。

### 4. その他単行本出版企画「広報の仕掛け人たち」第3弾

第2弾と同様に掲載会社の協力金を事業資金として編集発行することとした。協会Webサイトや、メール等で掲載会社を募り11社が参加予定。

### III. その他事業（会員の交流事業・会員向けセミナー・研究会および広報活動など）

#### 1. 会員の交流事業

##### （ア） 夏季情報交換会

会員相互の交流を通じ、協会の諸活動理解の一助として毎年開催している。令和元年度は、7月24日（水）に新入会員歓迎会と位置づけ、この1年間に新規入会された会員の方（含、名義変更）をご招待し、理事をはじめとした既存会員の方と積極的に交流していただく場として「THE RALLY TABLE（ザ・ラリーテーブル）」で開催した。当日は、各委員会・部会の活動について、代表者がプレゼンテーション形式で紹介し、今後積極的に協会活動に参画していただける機会とし盛況な会合となった。参加者は新入会員15名を含む53名。

##### （イ） なでしこカウンスル

女性広報担当者を対象として、女性会員同士の研鑽や交流を目的とする研究会を開催している。令和元年度は5月22日（水）に講師をお招きし、女性会員及び会員社の女性広報担当者を対象に開催した。平成28年4月から施行された女性活用推進法の趣旨に鑑み、会員の実務、活躍に貢献する啓発的なプログラムを提供。参加者の共感が集まるプログラムとなった。詳細は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
5月22日 （水）	逆境の中でもこんなに改革できる	株式会社メディアジーン BUSINESS INSIDER JAPAN 統括編集長 AERA 前編集長 浜田敬子氏 参加者：45名

##### （ウ） 親睦ゴルフ会

会員交流の場作りとして、長く開催実施するゴルフコンペを年1回開催予定だったが、令和元年度は新型コロナウイルスの影響を鑑みて開催を中止することとした。

##### （エ） 企業部会総会

新規入会者、既存会員から交代した名義変更会員、また協会イベントへの参加実績のない会員などを中心に企業部会の全会員を対象に、協会活動・イベント全般の説明と委員会・部会活動への勧誘を目的とする。令和元年度は、5月30日（木）にAlice aqua garden 品川で開催し、今後、積極的に部会活動に参加していただける機会とし盛況な会合となった。参加者は、27名。

##### （オ） PR業部会総会

PR業の会員社を一堂に会し、部会活動の報告と、会員各社の意見交換を行った。また、PR業実態調査、PR活動ガイドラインの説明も実施。令和元年度は4月18日（水）に神田錦町 Hasso Caféで開催した。参加者は41名。

#### 2. 会員向けセミナー／研究会など

##### （ア） 定例研究会

マスメディアやオピニオンリーダーなどのキーパーソンを招き、タイムリーなテーマを取り上げて開催している。令和元年度は7回実施、延べ479名の参加（1回平均68名）となり、概ね好評のうちに終了した。なお3月度開催予定だった第206回定例研研究会は新型コロナウイルスの感染拡大防止を考慮し、来年度へ延期することとした。

4月19日 (木)	第199回定例研究会 放送新時代に向けたNHKの経済報道～激変するメディア環境におけるこれからの報道番組作り～	NHK 報道局経済部長 小椋並樹氏 参加者：79名
5月21日 (火)	第200回定例研究会 進化を続ける日本経済新聞社は何をどう伝えるのか～新時代の報道機関の役割と日本企業に期待すること～	日本経済新聞東京本社 常務取締役 編集局長 井口哲也氏 参加者：89名
6月19日 (水)	第201回定例研究会 混沌とするメディア環境とこれからのニュースメディア～「インターネットメディア協会」代表理事 瀬尾 傑氏に訊く～	スマートニュース(株) スマートニュースメディア研究所 所長 瀬尾 傑氏 参加者：53名
9月13日 (金)	第202回定例研究会 “新生”ダイヤモンド編集部の新たな挑戦～老舗ビジネスメディアの新展開を探る～	(株)ダイヤモンド社 ダイヤモンド編集部 編集長 山口圭介氏 参加者：72名
10月15日 (火)	第203回定例研究会 朝日新聞社 経済部がめざすこれからの経済報道～メディア展開の方向性と広報担当者への期待～	朝日新聞東京本社 経済部長 寺光太郎氏 参加者：60名
11月28日 (木)	第204回定例研究会 フジテレビが拓くデジタルコンテンツの世界～通信と放送が融合する新時代 デジタル推進の方向性を探る～	(株)フジテレビジョン 総合事業局 コンテンツ事業センターコンテンツ事業室 副部長/チーフビジョナリスト 清水俊宏氏 参加者：51名
2月19日 (水)	第205回定例研究会 Twitterの最新動向と多彩な活用事例～PR、マーケティングで成果の上がるTwitter活用法を探る～	Twitter Japan(株) シニアクライアントパートナー(CPG業界担当) 青山康成氏 参加者：75名

#### (イ) 国際セミナー

PR担当者の国際的視野育成に寄与するため、海外メディアや海外のソートリーダーを講師にした勉強会を企画・開催した。令和元年度は1回講演会を開催した。開催概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
9月2日 (月)	2019 カンヌPR部門報告会	(株)博報堂ケトル 代表取締役&CEO/ (株)博報堂 執行役員 嶋 浩一郎氏 (株)博報堂 顧問 立谷光太郎氏 (株)本田事務所 代表取締役/PRストラテジスト 本田哲也氏 (株)TBWA HAKUHODO アクティベーションプランナー コピーライター 関谷 “アネーロ” 拓巳氏 (株)博報堂 コピーライター 谷脇太郎氏 (株)電通パブリックリレーションズ 執行役員 井口 理氏 (株)井之上パブリックリレーションズ 執

		行役員 尾上玲円奈氏 (株)博報堂ケトル PRディレクター/ストラテジックプランニングディレクター 太田郁子氏 参加者：123名
--	--	---

#### (ウ) 異文化勉強会

諸外国と日本のPR関係者との関係構築と国際的視野を広げるための勉強の場として大使館や文化機関への訪問機会を創出した。令和元年度は2回開催。概要は以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
9月18日 (水)	「ブラジル大使館」訪問&会員交流会	① 大使によるご挨拶 (逐次通訳付) ② PRSJ 理事長によるご挨拶 ③ 外交官によるプレゼンテーション/質疑応答 (逐次通訳付) ④ ブラジル料理のディナービュッフェでの交流会参加者：36名
11月5日 (火)	「在日アルゼンチン共和国大使館」訪問&会員交流会	① 大使によるブリーフィング (逐次通訳付) ② 観光担当公使によるプレゼンテーション (逐次通訳あり) ③ PRSJ 理事長によるご挨拶 ④ アルゼンチンタンゴショー ⑤ お食事 (ディナービュッフェ+アルゼンチンワインなど) 参加者：41名

#### (エ) 企業部会フォーラム

企業部会フォーラムは企業部会会員全体が集う場として、協会活動の理解と参画、会員相互の親睦を目的に会員の直近のニーズをテーマに外部講師を招いた講演会の形式で開催。令和元年度は1回開催した。終了後に懇親会を開催し、講師の方と会員同士の交流を深めた。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
4月16日 (火)	第20回 20代から50代まで、働く女性向け世代別Webメディア日経XWOMANプロジェクト	日経XWOMAN 総編集長 羽生祥子氏 参加者：ゼミ34名、懇親会23名 場所：パナソニック株式会社東京汐留ビル

#### (オ) 広報活動研究会

企業の広報部門やショールーム、お客様向け施設を訪問し、幅広い視点から、さまざまな活動事例や、組織や業務のあり方(文化施設等によるコーポレート・コミュニケーション、ブランディングなど)を学び体感することで、自社の広報部門における活動に向けたヒントを持ち帰っていただくことを目的として開催。令和元年度は各社の協力のもと、2回開催した。いずれの回も見学後懇親会を開催し、会員同士の交流を図った。



開催日	内 容	
6月26日 (水)	第22回 三菱みなとみらい技術館 訪問	三菱重工グループの技術を紹介する科学館「三菱みなとみらい技術館」を訪問し、「三菱みなとみらい技術館」の広報活動についてお話をうかがうとともに、施設見学を開催。参加者：19名、懇親会14名
10月1日 (火)	第23回 寺田倉庫訪問～TERRADAに学ぶ～	倉庫会社のイメージを一新し、文化を興し、街をつくる寺田倉庫(株)を訪問し、広報戦略についてお話を伺うとともに、施設見学【①倉庫の活用実態、②建築倉庫ミュージアム、③PIGMENT TOKYO (ピグメントーキョー)】を行った。見学後は懇親会を開催。 参加者：29名、懇親会19名

#### (カ) 広報ゼミ

企業内での広報部門の地位向上、またスキル向上を目指し、各回タイムリーなテーマを設定し、参加各社から自社広報活動上の課題を報告後、質疑応答、議論するゼミナール形式の勉強会。令和元年度は2回開催した。各回とも終了後懇親会を開催し、参加メンバーでさらに議論を深めた。

開催日	講演テーマ	講師/参加者
11月27日 (水)	第33回 3社ご登壇！危機管理広報～情報漏洩時の広報対応について、事例をもとに共に考える～	(株)プリンスホテル 広報部長 竹内晃治氏 アドビシステムズ(株) マーケティング本部 広報部 執行役員 岩崎健氏 くら寿司(株) 執行役員 広報宣伝IR本部長 岡本浩之氏 参加者：ゼミ28名、懇親会21名 場所：ELNET セミナールーム
2月12日 (水)	第34回 働き方改革について3社が登壇	株式会社朝日新聞社 働き方改革実行委員会事務局長 空田陽史氏 日本マイクロソフト株式会社 業務執行役員コーポレートコミュニケーション本部 本部長 岡部一志氏 株式会社NTTデータ 広報部 課長 星野真一氏 参加者：32名、懇親会26名 場所：西武ホールディングス本社 ダイゲート池袋

#### (キ) PR業カフェ

PRの次代を担う若手PRパーソンの育成が、これからのPRの中長期視点に立った発展にとって不可欠であるとの認識のもと、令和元年度も継続。「ワイガヤ会」としてPR各社若手を集め、協会アドバイザースタッフとともに開催。令和元年度は8月5日(月)と2月18日(火)の2回開催した。参加者は8月が34名、2月は37名。

#### (ク) PRスキル研究会

広く要望テーマや持ち込み企画を募り、ニーズの高いタイムリーなテーマで内容の充実を図り参加者の拡大を目指し実施した。また、一方的なセミナーだけではなく、活発な意見交換や検討の場となるような場づくりを図った。令和元年度は2回開催した。プログラムは以下のとおり。

開催日	講演テーマ	講師
9月5日 (木)	第44回 新興技術の進展や新しいエコシステムによるコミュニケーションの影響	(株)電通 CDC 事業開発ディレクター クリエイティブ・ディレクター 森 直樹氏 参加者：47名
12月9日 (火)	第45回 グローバル企業の事例から学ぶ「中長期的なPR戦略」の描き方	アマゾンジャパン(合) パブリックリレーションズ本部長 金子 みどり氏 参加者：49名

#### (ケ) PR経営者懇談会

PR業各社の経営者が一同に集い、情報交換や経営課題を共有する場として実施する。経営者に関心の高いテーマ(海外事情、経営、人事、労務など)に基づいた講師を招聘しての勉強会を実施し、講師を囲んだ懇談会形式で、令和元年度は3月に開催予定だったが新型コロナウイルスの影響を鑑みて開催を中止することとした。

#### (コ) その他

PR活動ガイドラインを6月20日公開した。ガイドラインの開示を通じて、昨今のメディア環境を踏まえたパブリックリレーションズ活動の標準形を示し、パブリックリレーションズへの正しい理解獲得を目指した。

### 3. 他団体などの交流事業

協会以外の関連諸団体等との交流を図り、会員の活動の場、並びに広報・PR周辺領域の場を広げ、啓発並びにネットワーキングに資する活動を行うことを目的とする。

- ・ I P R A、P R S Aなど海外の広報関連団体との交流促進と関係強化
- ・ カンヌ・ライオンズ、スパイクス・アジアなど海外の賞との連携強化に向けての検討
- ・ ホームズレポート、PR WEEKなど海外における業界メディアとの関係づくりの検討
- ・ 上記の活動実施報告として、協会のウェブサイトにおいて、英文コンテンツを掲載した。

この他、会員の国際的視野拡充のための啓発活動として、また海外の広報関係者との国際交流の機会として、数年に一度海外研修旅行企画を検討した。渡航先の広報関連諸団体やメディア訪問も組み込み、交流と関係作りにも役立てる。

PRSJ以外の関連諸団体との交流を図り、会員の活動の場並びに広報・PR周辺領域の場を広げ、啓発並びにネットワーキングに資する活動を行うことを目的とし、特に、協働としての企画・実績を

上げる日本広報学会との交流はこれまで同様前向きに展開していくよう検討協議し、次年度へ継続することとした。

## 4. 広報活動

### (ア) 協会ニュース

唯一の定期的インナーツールとし、読みやすさ、活用のしやすさに工夫を加え、協会と会員、会員同士のリレーションを深めるよう改善を加えていった。マンネリ化しないよう新しいアイデアは実験的に取り入れ、試行錯誤を繰り返したい。新会員制度に対する理解を得るため、巻頭特集企画を充実させ、「眠っている会員」を起こす努力を継続。

また、協会Webサイトのリニューアルに伴う「マイページ」設定により、「協会ニュース」の組織内での共有も可能になった。

### (イ) Webサイト・ソーシャルメディア

会員に対する情報提供に留まらず、公益法人としてパブリックリレーションズの理解促進につながる情報発信を行っていく。そのための体制作りにも着手した。

現行サイトは構築してから12年目を迎え、協会活動の変化や技術的な進展の結果、協会活動に見合わない問題点が顕在化してきた。個人会員の増加が予想される新会員制度のもと、サイトの比重はますます重くなることは自明である。そのため大規模な改訂を行い、協会創立40周年を節目とした「使えるサイト」の構築を目指した。また、運用面でもブラッシュアップしつつ効率重視の体制を整えた。

### (ウ) メディアリレーションズ

協会内情報の流通を活性化し、協会発のコンテンツの充実、多様化を図るために広報委員会のハブ機能を強化・継続させた。

また、ニュースリリースの効果的配信を行うとともに、「広報会議」誌の協会ページも有効に使っていった。

配信日	ニュースリリース
5月9日 (木)	日本パブリックリレーションズ協会がPR業実態調査を実施
6月20日 (木)	日本パブリックリレーションズ協会（PRS J）が「PR活動ガイドライン」を策定
6月26日 (水)	日本パブリックリレーションズ協会がIPRAとの協力関係に関する覚書を締結
8月8日 (木)	「PRアワードグランプリ 2019」9月2日からエントリー募集開始
11月25日 (月)	『広報・マスコミハンドブック（PR手帳）2020年版』を刊行
12月4日 (水)	「PRアワードグランプリ2019」が決定
1月17日 (金)	2019年度日本PR大賞が決定
2月20日 (木)	日本パブリックリレーションズ協会が設立40周年記念事業を開催

また、メディアなどから取材を受けた情報、掲載された情報は以下のとおり。

掲載日	媒体名	内 容
4月1日 (日)	「月刊広報会議」 5月号	当協会連載コラムで女性広報研究会として開催している「なでしこカウンスル」について紹介。
5月1日 (水)	「月刊広報会議」 6月号	当協会連載コラムで今年度における当協会の会員制度の変更について紹介。
6月1日 (土)	「月刊広報会議」 7月号	当協会連載コラムでPR業部会が開催した「PRパーソンズミーティング2019」について紹介。
6月1日 (土)	「月刊広報会議」 7月号	「5月の注目ニュースは？ 広告界ニュースダイジェスト(3)」において、当協会が「PR業実態調査」の結果をリリースしたことが掲載。
6月1日 (金)	「月刊広報会議」 7月号	当協会連載コラムで、今年4月に開講した「広報・PRスタートアップ講座」の概要について紹介。
6月20日 (木)	朝日新聞(大阪)	当協会関西支部の43人が、朝日新聞大阪本社を見学訪問したことが掲載。
7月1日 (月)	「月刊広報会議」 8月号	当協会連載コラムで、当協会が4月に開講した「広報・PR入門講座」について紹介。
7月10日 (水)	「THE 21」 8月号	特集「キャリアが拓ける稼げる資格」のケーススタディ記事において、PRプランナー資格の取得者に対するインタビュー記事が掲載。
7月20日 (土)	「企業と広告」 8月号	「協会ニュース」において、当協会が行ったPR活動のガイドラインの策定、当協会と国際的なPRパーソンの組織「IPRA(本部・ロンドン)との間における協力関係に関する覚書の締結について、ニュースとして簡単に掲載。
8月1日 (木)	「月刊広報会議」 9月号	当協会連載コラムで、「2019PR Yearbook」の刊行について紹介。
9月1日 (日)	「月刊広報会議」 10月号	当協会連載コラムで、当協会が6月に「PR活動ガイドライン」を策定し公表したことが紹介。
9月1日 (日)	「月刊広報会議」 10月号	特別企画「PR関連会社リスト2019」において、当協会が策定した「PR活動ガイドライン」がとり上げられ、企業がパートナーとしてPR会社を選定する際は、本ガイドラインの内容を確認して進めることがポイントとして示された。
9月1日 (日)	「月刊広報会議」 10月号	「INFORMATION」において、「PRアワードグランプリ2019」のエントリー募集が開始されたことが掲載。
9月5日 (木)	「CM通信」	当協会が「PRアワードグランプリ2019」のエントリー募集を始めたことが1ページにわたり掲載。
10月1日 (火)	「月刊広報会議」 11月号	当協会の連載コラムで、「第20回となる2019年度の「PRアワードグランプリ」の応募受付が9月2日より開始されたことについて紹介。
11月1日 (金)	月刊広報会議 12月号	当協会連載コラムで、関西部会が7月24日に開催した「広報夏季講座」について紹介。
10月1日 (火)	「月刊広報会議」 11月号	当協会連載コラムで、第20回となる2019年度の「PRアワードグランプリ」の応募受付が9月2日より開始されたことについて紹介。
11月30日 (土)	月刊広報会議 1月号	当協会の連載コラムで、当協会の『広報・マスコミハンドブック(PR手帳)2020』の発刊について紹介。
12月9日 (木)	「CM通信」 12月9日号	当協会の「PRアワードグランプリ2019」決定について1ページにわたり掲載。

12月20日 (金)	「企業と広告」 1月号	コーナー「協会ニュース」において、当協会の「PRアワードグランプリ2019」の受賞エントリーについて掲載。
12月28日 (土)	「月刊広報会議」 2月号	当協会の連載コラムで、協会の国際・交流委員会が主催した大使館訪問について紹介。
1月20日 (月)	「CM通信」 1月20日号	協会の2019年度PR大賞において、「パーソン・オブ・ザ・イヤー」にラグビー日本代表ヘッドコーチのジェイミー・ジョセフ氏、「シチズン・オブ・ザ・イヤー」に社団法人「注文をまちがえる料理店」が選出されたことが掲載。
1月23日 (木)	「サンケイスポーツ」 1月23日号	ラグビー日本代表ヘッドコーチのジェイミー・ジョセフ氏が当協会の「日本PR大賞」を受賞したことが報じられました
2月1日 (土)	「月刊広報会議」 3月号	当協会の連載コラムで、協会が実施した「PRアワードグランプリ2019」について紹介。
2月20日 (木)	「企業と広告」 3月号	コーナー「協会ニュース」において、当協会が実施した「日本PR大賞」について掲載。
2月29日 (土)	「月刊広報会議」 4月号	当協会の連載コラムで、1月22日に協会が開催した「新春PRフォーラム」と日本PR対象の表彰式について紹介。
2月27日 (金)	「CM通信」 2月27日号	当協会が創立40周年の中核事業として「アジア・パシフィックPRovokeサミット&SABREアワード東京」を、9月17日東京プリンスホテルで開催することについて掲載。
3月20日 (金)	「企業と広告」 4月号	コーナー「協会ニュース」において、当協会が創立40周年事業として「アジア・パシフィックPRovokeサミット&SABREアワード」を招聘し、9月17日東京プリンスホテルで開催することについて掲載。